

笹川保健財団 地域啓発活動助成

2021年12月17日

公益財団法人 笹川保健財団

会長 喜多悦子 殿

2020年度地域啓発活動助成
活動報告書

標記について、下記の通り活動報告書を添付し提出いたします。

記

活動課題

過疎地域医療を希望する薬学生等の短期研修プログラム

活動団体名： 日本大学薬学部

活動者（助成申請者）名： 小山 由美

2020 年度笹川保健財団地域啓発活動助成 活動報告書

I. 活動の目的と意義

本活動は、薬剤師の地域偏在の改善と地域医療への貢献を目指し、地方から都市部へ転入した学生やシニア薬剤師を対象とした U ターン、I ターンの啓発に繋がる地域医療研修プログラムを構築することを目的としています。

過疎地域等の医療に従事する労働者不足は深刻で、薬剤師数は全体で過剰と言われるものの地域偏在は進行し、過疎地域等における病院や薬局で活躍する薬剤師は不足しています。過疎化・都市化の背景の要因の 1 つには、大学進学に伴う人口流出があり、全国の大学生の 40%が東京圏に、26%が東京都に集中し、卒業後もその 7 割以上が東京都に残留することが明らかになっています。学生が出身地域の人口減少とその結果生じている地域社会の変化について、及び地域社会を維持するために奮闘している人々について知り・触れて・地域コミュニティに参加することは、将来出身地域に貢献する人材を育てる上で、意義があると考えます。また、都市圏で働くシニア薬剤師についても同様で、これまでの経験や技能を若者とは違う形で貢献できる可能性にちて知り・触れて・参加することは、過疎地やへき地などで高齢者や弱者の生活を支える生き方を選択するきっかけになると思います。

今回新型コロナウイルス感染症により、「知る・触れる・参加する」の段階のうち、「知る」の段階に焦点を当て、地域医療研修プログラムを構築し、学生向けプログラムを実施しました。

II. 方法

活動地域は薬学部のない茨城県を選びました。常陸大宮市は地域・在宅医療に積極的に取り組む地域で、医療や介護の求人が比較的多い地域です。住みやすい自然豊かな魅力ある地域ですが、都市部から離れると他の過疎地域同様に高齢化が進んでいます。今回常陸大宮市の住民、地域おこし協力隊、医療法人博仁会志村大宮病院医療者、常陸大宮薬剤師会、常陸大宮市役所の皆様に協力いただき、薬学生向けプログラムとシニア薬剤師向けプログラムを作成しました。薬学生向けプログラムについては本学の地域医療の授業の中で実施しました。

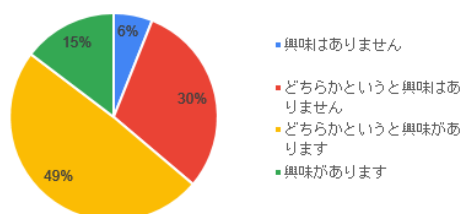
III. 活動の成果

- ① 学生向けプログラムは、学生に予め出身地域の特性を数値で表せるよう予習を課すことで、授業を通じて自身の地域の魅力や課題に気づき、将来自分に何ができるのか地域と向き合う機会となるよう構成しました。具体的には、地域特性と人口減少／少子高齢化の関係、現代にみられる地域課題、経済発展と人口流出の関係などについて、身近に捉えられるプログラム内容としました。また、近年地方移住へ関心が向いているというアンケート結果（内閣府）についても示すことで、若者が気づきにくい都市部生活の課題や地方の魅力を認識する機会となるよう工夫しました。更に地域創生に献身的に取り組む住民や行政や医療者等の話をおさめ、地域特性（地形や風景や音）を感じながらその想いを聴くことができるよう編集を工夫しました。

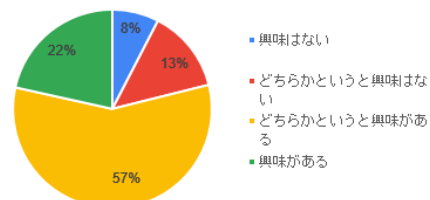
- ② シニア向けプログラムが学生向けプログラムと異なる点は、年齢を重ねることで育まれる精神的な強さや高齢者への思いやりやボランティア精神を、地域住民の生活及び医療の充実に役立てられる可能性や、そのようなシニアが求められていることを伝える内容に構成しました（未実施）。
- ③ 学生向けプログラムを実施した前後で地域医療への関心度を調べました。「あなたは都市部以外（離島や人口減少地域）の地域医療に興味がありますか？」と質問したところ、受講前は興味があるもしくはどちらかという興味があると回答した学生は、受講前 64%から受講後 79%と 15%増加しました。

また、映像を通じて常陸大宮市に興味を持った学生や、遠隔によるグループ討論により他の学生から多様な気づきを得られた学生や、地域創生に尽力する若者に共感した学生や、自身の考え方が広がった整理ができたなど、多彩な効果があることが分かりました。

あなたは都市部以外（離島や人口減少地域）の地域医療に興味がありますか？受講前



あなたは都市部以外（離島や人口減少地域）の地域医療に興味がありますか？受講後



IV. 振り返りと課題

今回学生向けプログラムとシニア薬剤師向けプログラムを構築することができました。本来は地域住民の生活と医療について「知る・触れる・参加する」研修プログラムを構築する計画でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、第一段階の「知る」の段階に絞ってプログラムを構築し、遠隔手法で「知る」段階のプログラムを実施しました。その結果本プログラムが、学生の U ターン、I ターンの啓発に繋がる可能性を見出しました。シニア薬剤師向けのプログラムは未実施ですが、小人数で実施する計画です。

過疎地域等の医療を充実させるため、次の段階の「触れる・参加する」ための研修プログラムを検討し、今後も各地域の特色に沿った様々な研修プログラムを構築していきたい。また、学生やシニア薬剤師が地域のニーズを知り、U ターンや I ターン人財として移住や就職を検討するための支援の仕組みを構築したいと考えています。